



## JDP 50年を振り返って

熊崎克英

僕がJDPを知ったのは、今から40年近く前、僕が20歳後半に入ったときのことだ。同じ学年の主任をしていた佐藤氏に誘われて、東京に研修として出かけた。

当時、日本深層心理研究会と名乗っていた会がその研修先であった。何しろ初回の費用が7万円かかるということで、交通費や東京での宿泊費を入れると12万円を超えるのではないかと思われた。とても当時の僕の給料では無理な費用であった。

そこで、当時学校から認められれば10万円の研修費が出るということで、申し込んで幸い認められたので出かけられることになったのだ。

そんなこんなで興味と不安を胸に出かけたのだが、とにかく不思議なところであった。

ただ、分かったのがその会が、日本で催眠の第一人者である、山口氏によって作られたもので、催眠の技術を教育や医療に役立てたいとの思いから作られた会だということだった。

とにかく僕はなんとか続けて会に出かけ、催眠の技術とその理論を僕なりに習得していった。

その後の会が名古屋に移り、JDPとなり佐藤氏が理事長で、現在に至ったことは、誰かが書いてくれると思うのでここでは省くとする。

ただ、今我々はこの深層心理技法（催眠を含めた）が強大な力を持ち、多くの問題を解決できると知っており、これを広く人のために役立てたいと思っているが、残念ながらそれを広める事に困難を感じている。

現代において多くの人たちが悩みを持ち、それを解決出来ずにいる現実を見ると、何とか力になりたいのだが、それがなかなかできない歯がゆさがある。

これも、かつて多くの興味本位の人たちによって、催眠が使われ、そのため誤解された。ゆえに深層心理技法そのものがうさんくさく見られ、さけられている事にも原因がある。

これらの困難に、直面しているわけだが、会のメンバーの努力によって、少しずつ変わっていることも事実である。

これからも、地道な活動を続け、佐藤氏の念願であり、我々の願いである会の発展を目指していくつもりである。